

第88回 簿記実務検定第1級試験問題 原価計算 (制限時間 1時間30分)

1 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

売掛金	製品	A組製品	B組製品
第1工程半製品	作業くず	素材	買掛金
賃金	減価償却費	(棚卸減耗損費)	売上
売上原価	製造	A組製造	B組製造
第1工程製造	第2工程製造	製造間接費	材料消費価格差異
本社	工場		

a. 個別原価計算を採用している長野工業株式会社は、月末に工場の建物に対する減価償却費の月割額を消費高として計上した。ただし、1年分の減価償却費は ¥480,000 である。

b. 個別原価計算を採用している山梨製作所の6月末における素材の实地棚卸数量は430kgであった。よって、次の素材に関する6月の資料にもとづいて、素材勘定の残高を修正し、棚卸減耗損(棚卸減耗費)勘定に計上した。ただし、消費数量は2,520kgである。なお、消費単価の計算は総平均法によっている。

6月 1日	前月繰越	600kg	1kgにつき ¥600	¥360,000
10日	仕入	1,200 "	" " 620	¥744,000
20日	仕入	1,200 "	" " 630	¥756,000

c. 組別総合原価計算を採用している岐阜製作所は、月末に組別総合原価計算表を次のとおり作成し、各組の完成品原価を計上した。

組別総合原価計算表 (一部)

平成〇年4月分

摘 要	A 組	B 組
組直接費 素材費	1,940,000	1,250,000
完成品原価	4,200,000	3,000,000
完成品数量	2,000個	1,500個
製品単価	¥ 2,100	¥ 2,000

d. 工程別総合原価計算を採用している静岡工業株式会社は、月末に工程別総合原価計算表を作成し、各工程の完成品原価を次のとおり計上した。ただし、各工程の完成品はすべていったん倉庫に保管しており、当月中に倉庫から第2工程(最終工程)に投入した第1工程の完成品原価は ¥2,250,000 である。なお、当社では第1工程の完成品原価をすべて第1工程半製品勘定に振り替えている。

第1工程 ¥1,850,000 第2工程 ¥3,010,000

e. 単純総合原価計算を採用している愛知製作所の工場は、本社の指示により製造原価 ¥2,750,000 の製品を得意先栃木商店に発送した。ただし、工場会計は本社会計から独立しており、売上勘定と売上原価勘定は本社に、製品に関する勘定は工場に設けてある。(工場の仕訳)

f. 個別原価計算を採用している福岡工業株式会社では、製造指図書#9の製造中に作業くずが発生した。よって、これを ¥26,000 と評価し、製造指図書#9の製造原価から差し引いた。

2

佐賀製作所は、単純総合原価計算によって総合原価を計算したあと、等級別製品の原価を計算している。下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 製造勘定を完成しなさい。
- (2) 等級別総合原価計算表を完成しなさい。
- (3) 3級製品勘定を完成しなさい。

ただし、i 等級別製品は、1級製品・2級製品・3級製品を製造している。

ii 等価係数は、各製品の1個あたりの重量による。

iii 等級別製品の払出単価の計算方法は、先入先出法による。

資 料

a. 月初仕掛品原価 素材費 ¥770,000 加工費 ¥315,000

b. 当月製造費用（一部）

修繕料 前月末払高 ¥4,000 当月支払高 ¥60,000 当月未払高 ¥8,000

c. 当月完成品総合原価 ¥6,500,000

d. 等級別製品データ

製品	1個あたりの重量	当月完成品数量	当月販売数量	月初製品棚卸高		月末製品棚卸高	
				数 量	単 価	数 量	単 価
1級製品	500g	3,000個	2,700個	500個	¥600	800個	¥()
2級製品	300g	6,000個	5,800個	1,000個	¥360	1,200個	¥()
3級製品	100g	17,000個	18,000個	3,000個	¥120	2,000個	¥()

3

次の各問いに答えなさい。

- (1) 鹿児島製作所では、直接原価計算をおこない利益計画をたてている。当月における下記の資料から、次の金額または数量を求めなさい。

a. 損益分岐点の売上高

b. 目標営業利益 ¥720,000 を達成するための販売数量

c. 販売単価を20%引き下げた場合の損益分岐点販売数量

資 料

① 販 売 単 価 ¥2,500

③ 販売費及び一般管理費

② 製 造 費 用

変動販売費（製品1個あたり） ¥200

変動製造費（製品1個あたり） ¥800

固定販売費及び一般管理費 ¥380,000

固定製造間接費 ¥550,000

- (2) 標準原価計算を採用している宮崎製作所の当月における下記の資料と製造勘定の記録から、製造勘定の(a)～(c)の金額を求めなさい。なお、製造勘定への記帳方法は、パーシャルプランによっている。

ただし、直接材料は製造着手のときにすべて投入されるものとする。

資 料

① 標準原価カード（一部）

A製品 標準原価カード			
	標準消費数量	標準単価	金 額
直接材料費	5kg	¥380	¥1,900
	標準直接作業時間	標準賃率	
直接労務費	3時間	¥900	¥2,700
製品1個あたりの標準原価			¥6,700

② 生 産 デ ー タ

月初仕掛品 140個（加工進捗度50%）

当月投入 970個

合 計 1,110個

月末仕掛品 150個（加工進捗度60%）

完 成 品 960個

③ 実際直接材料費

実際消費数量 5,050kg

実 際 単 価 ¥400

④ 実際直接労務費

実際直接作業時間 2,950時間

実 際 賃 率 ¥940

製 造		製 品	
前月繰越	602,000	製 品 (a)	
材 料	2,020,000	材料消費価格差異 (b)	
労 務 費	2,773,000	材料消費数量差異	76,000
製造間接費	2,047,000	賃 率 差 異	118,000
予 算 差 異	38,000	作業時間差異 (c)	

(3) 熊本製作所における下記の勘定記録と資料により、次の金額を求めなさい。ただし、会計期間は原価計算期間と一致しているものとする。

a. 材料の実際消費高 b. 製造間接費配賦差異 c. 売上原価勘定の(ア)の金額

製 造		売 上 原 価	
前期繰越	1,090,000	製 品 ()	製造間接費配賦差異 ()
素 材 ()	次期繰越 760,000	賃 率 差 異 ()	損 益 (ア)
賃 金 4,140,000		()	()
製造間接費 ()			
()			

資 料

- ① 素 材 期首棚卸高 ￥ 348,000 当期仕入高 ￥ 3,672,000
 期末棚卸高 ￥ 391,000
 素材の消費高はすべて製造直接費である。
- ② 工場消耗品 期首棚卸高 ￥ 40,000 当期仕入高 ￥ 740,000
 期末棚卸高 ￥ 60,000
- ③ 賃 金 予定平均賃率 @ ￥ 920 直接作業時間 4,500 時間 間接作業時間 250 時間
 実際平均賃率 @ ￥ 940
- ④ 給 料 当期消費高 ￥ 1,800,000
- ⑤ 電 力 料 当期支払高 ￥ 170,000 当期測定高 ￥ 173,000
- ⑥ 減価償却費 当期消費高 ￥ 315,000
- ⑦ 製 品 期首棚卸高 ￥ 80,000 期末棚卸高 ￥ 110,000
- ⑧ 製造間接費配賦額は、直接作業時間/時間につき ￥ 730 の予定配賦率を用いている。

(4) 個別原価計算を採用している長崎製作所は、製造間接費について公式法変動予算により予算を設定し、予定配賦をおこなっている。下記の資料によって、次の文の のなかにあてはまる金額を示すとともに { } のなかからいずれか適当な語を選び、その番号を記入しなさい。

当月の実際操業度における予算差異は ￥ a の b {1. 借方差異 2. 貸方差異} となる。

資 料

- ① 月間の基準操業度 (直接作業時間) 2,300 時間
- ② 月間の製造間接費予算額 ￥ 2,875,000 (変動費率 ￥ 500 固定費予算額 ￥ 1,725,000)
- ③ 当月の実際直接作業時間 2,200 時間
- ④ 当月の実際製造間接費発生額 ￥ 2,860,000

(5) 単純総合原価計算を採用している大分製作所の次の資料から、完成品単価を求めなさい。

ただし、i 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。

ii 月末仕掛品原価の計算は先入先出法による。

iii 正常減損は製造工程の終点で発生しており、正常減損費は完成品のみに負担させる。

資 料

- ① 生 産 デ ー タ
- 月初仕掛品 400kg (加工進捗度 50%)
- 当月投入 4,300kg
- 合 計 4,700kg
- 月末仕掛品 500kg (加工進捗度 40%)
- 正常減損 200kg
- 完 成 品 4,000kg
- ② 月初仕掛品原価
- 素 材 費 ￥ 620,000
- 加 工 費 ￥ 420,000
- ③ 当月製造費用
- 素 材 費 ￥ 6,450,000
- 加 工 費 ￥ 8,400,000

4

個別原価計算を採用している九州製作所の下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 6月30日の①と⑦の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 素材勘定・消費賃金勘定・第2製造部門費勘定に必要な記入をおこない、締め切ちなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) A製品（製造指図書#1）とB製品（製造指図書#2）の原価計算表を作成しなさい。
ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材 230個 @¥5,300 ¥1,219,000
工場消耗品 250〃 〃 60 ¥ 15,000
仕 掛 品（製造指図書#1） ¥1,099,000（原価計算表に記入済み）

- ii 素材の消費高の計算は移動平均法、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。
- iii 賃金の消費高は、作業時間/時間につき ¥1,150 の予定賃率を用いて計算し、消費賃金勘定を設けて記帳している。
- iv 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を配賦基準として予定配賦している。

	第1製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予定額（予算額）	¥5,400,000	¥2,250,000
年間予定直接作業時間（基準操業度）	18,000時間	9,000時間

取 引

6月 5日 B製品（製造指図書#2）の注文を受け、素材130個を消費して製造を開始した。

9日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は現金で支払った。

素 材 400個 @¥5,200 ¥2,080,000
工場消耗品 700〃 〃 60 ¥ 42,000

17日 C製品（製造指図書#3）の注文を受け、素材350個を消費して製造を開始した。

25日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃 金 総 額 ¥2,906,000

うち、控除額 所 得 税 ¥213,000 健康保険料 ¥86,000

26日 A製品（製造指図書#1）40個が完成した。なお、A製品の賃金予定消費高と製造部門費予定配賦高を、次の作業時間によって計算し、原価計算表に記入した。ただし、賃金予定消費高と製造部門費予定配賦高を計上する仕訳は、月末におこなっている。

製造指図書#1 / 1,300時間（第1製造部門900時間 第2製造部門400時間）

30日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は200個であった。よって、消費高を計上した。（間接材料）

② 当月の作業時間は、次のとおりであった。よって、当月の賃金予定消費高を計上した。

		合計	内訳	第1製造部門	第2製造部門
直接作業時間	製造指図書#1	1,300時間		900時間	400時間
	製造指図書#2	700時間		500時間	200時間
	製造指図書#3	300時間		200時間	100時間
間接作業時間		100時間			

③ 上記②の直接作業時間によって、製造部門費を予定配賦した。

④ 健康保険料の事業主負担分 ¥86,000 を計上した。

⑤ 当月の製造経費消費高を計上した。

電 力 料 ¥152,000 保 険 料 ¥56,000 減価償却費 ¥188,000

⑥ 製造間接費を次のように各部門に配分した。

第1製造部門 ¥420,000 第2製造部門 ¥152,000

動 力 部 門 40,000 修 繕 部 門 30,000

⑦ 補助部門費を次の配賦基準によって、直接配賦法で各製造部門に配賦した。

	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門
動 力 部 門 費	kW数×運転時間数	100kW×750時間	50kW×500時間
修 繕 部 門 費	修 繕 回 数	3回	2回

⑧ 当月の賃金実際消費高 ¥2,790,000 を計上した。

⑨ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。

⑩ 第1製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

⑪ 第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

第88回 簿記実務検定 1級 原価計算 [解答用紙]

1	借	方	貸	方
a				
b				
c				
d				
e				
f				

1 得点		2 得点		3 得点		4 得点		総得点	
---------	--	---------	--	---------	--	---------	--	-----	--

試 験 場 校	受 験 番 号

2

(1)

製			造		
前 月 繰 越 (		)	諸	口	6,500,000
素 材	4,235,000		次 月 繰 越 (		)
工 場 消 耗 品	280,000				
賃 金	1,751,000				
給 料	192,000				
健 康 保 險 料	73,000				
減 価 償 却 費	276,000				
修 繕 料 (		)			
雑 費	17,000				
(		)			(

(2)

等級別総合原価計算表

平成○年4月分

等級別製品	重 量	等価係数	完成品数量	積 数	等級別製造原価	製品単価
1級製品	500 g		個			¥
2級製品	300 "		"			"
3級製品	100 "		"			"
					6,500,000	

(3)

3 級 製 品

前 月 繰 越	360,000	(	)	(	)
製 造 (		)	次 月 繰 越 (		)
(		)	(		)

2
得点

3

(1)

a	損益分岐点の売上高	¥
b	目標営業利益 ¥720,000 を達成するための販売数量	個
c	販売単価を20%引き下げた 場合の損益分岐点販売数量	個

(2)

a	¥
b	¥
c	¥

(3)

a	材料の実際消費高	¥
b	製造間接費配賦差異	¥
c	売上原価勘定の(ア)の金額	¥

(4)

a	b
¥	

(5)

完 成 品 単 価	¥
-----------	---

3

得点

4

(1)

	借 方	貸 方
6月30日①		
30日⑦		

(2)

素 材	
6/1 前 月 繰 越	1,219,000
消 費 賃 金	
第 2 製 造 部 門 費	

(3) 製造指図書 # /

原 価 計 算 表							
直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費				集 計	
		部 門	時 間	配賦率	金 額	摘 要	金 額
954,000	115,000	第 1	100	300	30,000	直接材料費	
						直接労務費	
						製造間接費	
						製 造 原 価	
						完成品数量	個
						製 品 単 価	¥

製造指図書 #2		原 価 計 算 表					
直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費				集 計	
		部 門	時 間	配賦率	金 額	摘 要	金 額
						直接材料費	
						直接労務費	

4
得点

1	借 方		貸 方	
a	製造間接費	40,000	減価償却費	40,000
b	棚卸減耗損 (棚卸減耗費)	31,000	素 材	31,000
c	A 組 製 品 B 組 製 品	4,200,000 3,000,000	A 組 製 造 B 組 製 造	4,200,000 3,000,000
d	第1工程半製品 第2工程製造 製 品	1,850,000 2,250,000 3,010,000	第1工程製造 第1工程半製品 第2工程製造	1,850,000 2,250,000 3,010,000
e	本 社	2,750,000	製 品	2,750,000
f	作 業 く ず	26,000	製 造	26,000

2

(1)		製 造	
		諸 口	
前月繰越 (素 材)	1,085,000)	次 月 繰 越 (	6,500,000
工場消耗品	4,235,000		1,473,000)
賃 金	280,000		
給 料	1,751,000		
健康保険料	192,000		
減価償却費	73,000		
修繕費 (雑 費)	276,000		
	64,000)		
	17,000		
	(7,973,000)		(7,973,000)

(2) 等級別総合原価計算表

平成〇年〇月分						
等級別製品	重 量	等価係数	完成品数量	積 数	等級別製造原価	製品単価
1級製品	500g	5	3,000個	15,000	1,950,000	130
2級製品	300〃	3	6,000〃	18,000	2,340,000	130
3級製品	100〃	1	17,000〃	17,000	2,210,000	130
				50,000	6,500,000	

(3) 3級製品

前月繰越 (製造)	360,000 (売上原価)	次月繰越 (製造)	260,000 (製造)
	2,210,000)		2,570,000)

3

(1)	a	損益分岐点の売上高 ¥	1,550,000	
	b	目標営業利益 ¥720,000 を達成するための販売数量	1,100	個
	c	販売単価を20%引き下げた 場合の損益分岐点販売数量	930	個

(2)

a	¥	6,432,000
b	¥	101,000
c	¥	9,000

(3)

a	材料の実際消費高 ¥	4,349,000
b	製造間接費配賦差異 ¥	47,000
c	売上原価勘定の(ア)の金額 ¥	11,402,000

(4)

a	b
¥	35,000
	1

(5)

完成品単価 ¥	3,685
---------	-------

4

(1)

	借	方	貸	方
6月30日①	製造間接費	45,000	工場消耗品	45,000
30日⑦	第1製造部門費 第2製造部門費	48,000 22,000	動力部門費 修繕部門費	40,000 30,000

(2)

要素				材料	
6/1 前月繰越	1,219,000	6/5 製造	689,000		
9 現金	2,080,000	17 製造	1,827,000		
		30 次月繰越	783,000		
			3,299,000		
消費費賃金					
6/30 賃金	2,790,000	6/30 諸賃率	2,760,000		
			30,000		
			2,790,000		
第2製造部門費					
6/30 製造間接費	152,000	6/30 製造	175,000		
〃 諸口	22,000				
〃 製造部門費配賦差異	1,000				
	175,000		175,000		

(3) 製造指図書# /

原価計算表

直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費			集 計		
		部 門	時 間	配賦率	金 額	摘 要	金 額
954,000	115,000	第 1	100	300	30,000	直接材料費	954,000
	1,495,000	第 1	900	300	270,000	直接労務費	1,610,000
	1,610,000	第 2	400	250	100,000	製造間接費	400,000
						製造原価	2,964,000
						完成品数量	40 個
						製品単価	74,100

製造指図書#2

原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費				集計	
		部門	時間	配賦率	金額	摘要	金額
689,000	805,000	第 1	500	300	150,000	直接材料費	
		第 2	200	250	50,000	直接労務費	